

Ⅲ お わ り に

今年は、昨年、一昨年に続いて「発達と障害に応じた指導」のテーマで6つのグループが実践を重ねてきました。各グループの研究テーマは殆ど昨年と同じで、研究の積み上げをはかってきました。又、研究活動の進め方は、今年がこの研究体制での三年目でもあったので、先の二年間の実践の上に立って新たな試みがなされました。

養護学校では、学校と家庭とが協力し合って子供の教育に当たることの大切さを日頃から痛感しています。教育研究の点でもこれは同じ様に言えることで、各グループはテーマの特性によっていろいろなかたちで家庭と連携を取り合いながら活動をしてきました。

『わかる』授業グループは、昨年は教科の学習グループと言っていたものです。このグループが今年度教材としている算数パズルは、家庭学習用としても使われており、子供たちの学校と家庭の生活の様子を父母と教師が互いに知り合う仲だちになってくれています。

からだづくりグループが昨年度からはじめたトランポリン教室は、講師に指導員の資格を持つ母親の協力を得て、毎週一回の教室がずっと続いており、単にからだづくりの面だけでなく、付き添っている父母も交えた心の交流の場としても大いに役立ってきました。

コミュニケーショングループは、研究の対象としている児童生徒の父母を交えたケース研究会を開いて、インリアル理論による子供との接し方について、学校と家庭が夫々の立場で大切なことを確かめ合ってきました。

パソコンを使った学習が、将来、家庭学習にも導入されるようになることがあるかもしれませんが現段階では学校内だけのことなので、この研究グループについては今は家庭と直接的な連携はありません。

性指導グループは、父親、母親と共に語り合う学習会を続けてきました。この学習会で話題になったことの中に、研究の新しい方向を見つけるきっかけになったものもあったと思います。

読み聞かせグループが毎週水曜日に行っている「絵本の日」では、その日に読まれた本の題名を書いた読書カードが参加した子供たちに渡されます。このカードや連絡帳で読書指導について家庭と連絡しあって効果をあげています。

研究活動が日常的になり、学校と家庭との連携し合う場が数多くできてきたなど、得るところの多い三年間の実践ではありましたが、ここで一区切りをつけたいと思います。この三年間の研究体制と研究テーマを生かしながら、更に発展させていく方法を探っていきたいと思います。

諸先生のご指導をよろしくお願いします。

(加 藤 定 雄)